

## — 鉄鋼ニュース —

## タイ国の鉄鋼事情

鉄鋼連盟の調査によると、タイ国近年の鉄鋼輸入量は、1954年、151,000 t、1955年 165,000 t、1956年 179,000 tと毎年増加の傾向をたどっている。タイ国は現在タイ・セメント工場に付属する小規模鉄鋼工場（木炭小型高炉 15 t）が、丸棒、コンクリートバーを生産しているに過ぎない。このため同国の鉄鋼工場建設計画に対する熱意は強く、56年7月工業省とタイ製鉄会社との取りきめを政府が承認したが、この取りきめによると、締結後6カ年以内に製鋼所を建設し、最低日産 200 tの能力を有する最新式設備を建設しなければならないことになっている。

タイ国の輸入鉄鋼製品は棒、形鋼、亜鉛鉄板、ブリキ、軌条、パイプ、釘などが主なもので、鉄道事業、道路建設、灌漑事業が大口を占めている。これら鉄鋼の輸入先は、日本（75,000 t）、香港（39,000 t）、ベルギー（16,000 t）、英国（10,000 t）、フランス（9,000 t）、米国（6,000 t）が主なるものである。

## 尼崎製鉄の第2号高炉火入れ

尼崎製鉄では、かねて第2号高炉（公称能力日産 600 t）の建設を進めていたが、この程完成、5月25日火入れを行い、2基操業の生産態勢に入った。同高炉は工費約 30・2 億円を投じて昨年6月着工したもので、わが国では戦後2番目、関西地区では初の新設高炉である。形式はドイツのウォルフ式の公称能力 600 tのものであるが、実能力は 800 tから 900 tといわれている。

この高炉の特徴は、(1) 他の高炉に比較して冷却盤の数が多く、炉の耐用年数が長くなっている。(2) 鉄鉱石コークスなどの投入がすべて遠隔操作で行われることなどである。またこのほか付帯設備の熱風炉も煉瓦を六角形に積んで加熱面を大きく、自動燃焼装置を備えるという最新式のものを採用している。

なお引き続きペレタイジング、オアベッチング、港灣などの諸設備の新増設工事を行い、35年上期中に第1号高炉を公称能力日産 600 tに改造する計画だが、これ等が完成すると、同社の年間鉄鋼生産能力は 54 万 tになる見込である。

## 高周波鋼業の新鋭電気炉設置

日本高周波鋼業では、総工費 3・3 億円をもつて、八戸工場に新鋭 7,500 KVA 開放型電気炉の増設工事のところ、この程完成、稼動を開始した。同設備は第1電気炉工場の西側に、原料工場とこれを結ぶ第2電気炉工場を新設したもので、これにより既設の第1工場の 1,800 KVA 1基 2,400 KVA 2基 3,500 KVA 1基 5,000 KVA 1基と併せて同工場の年間能力は 51,400 tとなる。

新設備では、特に各原料が原料工場から自動的にコンベアー・ベルトによつて電炉工場に送られて配合され、また鋳鉄が連続式となつている等、機械化されている点が注目される。なお生産される銑鉄は一部同工場内東側

の密閉型電気炉（10 t）によつてウオツシュド・メタルとされることになっている。

## 日本最大の高炉建設

八幡製鉄では、戸畑地区に銑鋼一貫の大製鉄所を建設するため、戸畑市中原海岸地先 140 万坪の埋立工事を行つていたが、この程第1期 60 万坪の埋立が完成、第1高炉建設の基礎工事に着手した。基礎工事は地下 18・5 m まで掘下げ、岩盤上に鉄筋コンクリートで固めることになつており、年末までに完成。明年早々炉体組立工事にかかる。

同高炉は、高さ 80 m、炉底の直径 12 m、日産 1,500 t というわが国最大（現在は日産 1,000 t が最大）の高炉で、34年3月までに完成の予定という。

## 製鉄各社の港灣施設強化

製鉄各社は、鉄鉱石輸入の増大に備えて港灣施設を強化することになり、各社で総経費 240 億円に上る大規模な拡充工事に乗出した。工事の内容としては、現在の港灣施設の改善、新規の港灣の建設、鉄石集積所の新設などがあげられる。

業界が港灣施設の強化を迫られているのは、(1) 今後の鉄鋼増産につれて鉄鉱石の輸入量が急増する。(2) 輸送費を切下げるため輸送船が大型化するなどの事情によるものである。

輸送船の大きさについて見ると、鉄石輸入の合理化のために鉄石専用船の建造が進められているが、輸入先がフィリッピン、マレーなどの近距離だけでは足りず、インド南米などの遠距離地域の分がふえる見通しなので、専用船の大きさは採算上 4 万重量 t 位になると見られている。ところが現在の各製鉄所の港灣施設は、船が接岸する荷揚岸壁は 1 万重量 t 級の船を想定して建設されたため、水深 9 m 前後に過ぎず、無理をしても 1・5 万重量 t までの船しか接岸できない。また荷揚設備も 1 万重量 t 級の船が入ると荷揚に数日もかかる有様だという。

## 主要各社の港灣施設拡充計画は次の通り

八幡製鉄：八幡製鉄所の八幡地区を工費 25 億円で改築すると同時に、戸畑地区には工費 35 億円で新しい港灣を建設する。いずれも水深 12 m で 4 万重量 t の専用船の接岸が可能。

富士製鉄：室蘭、広畑、釜石の各製鉄所とも港灣を改築し、大型専用船の接岸ができるようにする。工費は室蘭が 10 億円、広畑、釜石はそれぞれ 20 億円。

日本鋼管：川崎製鉄の水江地区に港灣を新設するが、4 万重量 t の大型船の接岸は無理なので、付近の扇島に鉄石集積所を建設、この集積所に一旦荷揚げする。

住友金属工業：和歌山製造所の高炉建設と並行して和歌山港を新設する。工費 80 億円で、大型船の入港を予定している。また小倉製鉄所にも工費 20 億円で港灣を新設する。（以下 684 ページへつづく）